



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オヘ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/25 (月)	▲ 1,900	▲ 13,300	▲ 15,200	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 社債等買入 ▲ 200 補充オペ + 100 国債補充供給 ▲ 100	国債買入 + 4,200	日: 企業向けサービス価格指数 (3月)
4/26 (火)	▲ 3,000	+ 6,000	+ 3,000				日: 失業率 (3月) 米: 消費者信頼感指数 (4月)
4/27 (水)	▲ 2,000	+ 9,000	+ 7,000		共通担保 (全) ▲ 2,300		日: 金融政策決定会合 (1日目)
4/28 (木)	▲ 3,200	+ 4,400	+ 1,200		新型コロナ支援特別 ▲ 58,200		日: 金融政策決定会合の結果、黒田総裁会見 展望レポート公表 欧: ECB経済報告 米: GDP (1Q)
4/29 (金)				昭和の日			欧: ユーロ圏CPI (4月) 欧: ユーロ圏GDP (1Q)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初565兆5,600億円から始まった。その後、国庫短期証券の発行を主因に564兆円まで減少したものの21日には国債買入れにより565兆1,100億円まで増加し、564兆6,400億円で越週した。なお、日銀は20日に単日で指値オペを実施し、21日から26日までは連続指値オペを実施することとしている。

無担保コールON物はマクロ加算残高にかかる基準比率見直しの影響を大きく受ける都銀・信託業態の資金調達ニーズが強く、堅調な地合となった。同加重平均金利は週初、前営業日対比△0.003%の△0.019%から始まったものの、その後は底堅い資金調達ニーズを背景に緩やかな上昇基調を辿り、週末3日積みとなる22日は△0.015%となった。

ターム物は1~2W物を中心に、△0.015%~△0.010%の水準で出合がみられた。

来週の主な予定は、国内では27、28日に金融政策決定会合の結果公表や、28日に展望レポートの公表などがある。海外では28日に米GDP (1Q) の発表や、29日にユーロ圏GDP (1Q) の発表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.050 ~ 0.001
1M	△0.020 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### <レポ>

足許GC取引は週初△0.095%近辺の出合で始まった。日銀は、4月20日に指値オペをオファーした他、翌21日から26日までの連続指値オペを通知したが、大きなGCレートの変動には繋がらず、△0.100%~△0.095%の水準で推移した。25日受渡しの取引は、短国6Mと3Mの発行が重なったものの、一時的にGCのオファーが薄くなるタイミングがあった。しかし最終的には△0.100%近辺で出合、越週した。

SC取引は2年412~435回債、5年139~151回債、10年333~366回債、20年164~180回債、30年66~74回債、40年9~14回債などに引合が多くみられた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.010 ~ 0.000

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆600億円で、週間償還額 (約2,100億円) を上回った。発行市場は、陸運や鉄鋼、小売り等の業態で大型の発行が見られ、活況なマーケットであった。発行残高は先週末の23兆2,228億円から4月21日時点で23兆7,588億円に増加した。発行レートは、0%近辺での出合であった。

来週の週間償還額は、約1兆4,000億円となっている。発行市場は、月末週となり相応の発行が見込まれるものの、大型連休を控え、既に大型の発行を行った企業もみられることから、償還超を予想する。発行レートは0%近辺での出合を予想する。25日に、CP等買入れオペが4,000億円程度オファーされる予定。

### <TDB>

4月22日の3M1076回債の入札は、最高落札利回り△0.1172% (前回債△0.1005%)、平均落札利回り△0.1191% (前回債△0.1128%) となった。来週は国庫短期証券の入札は予定されていない。